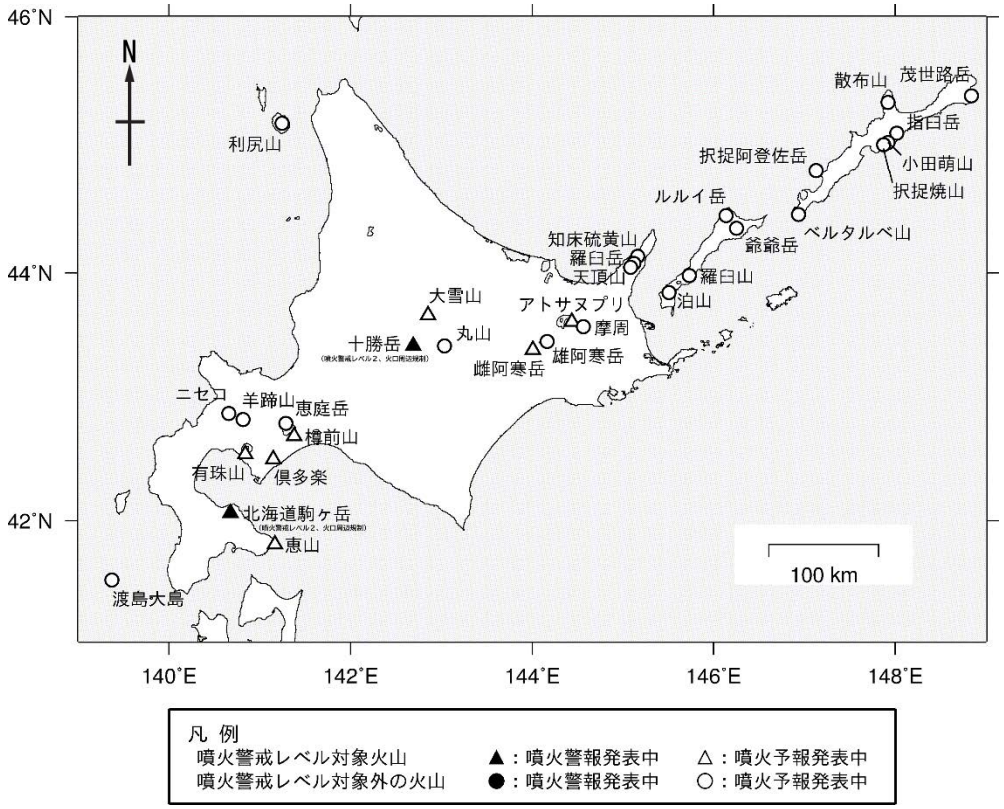
○ 北海道地方の火山活動

管内月間火山概況（令和８年10月）

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（令和８年11月４日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル２（火口周辺規制）	十勝岳、北海道駒ヶ岳
噴火予報	レベル１（活火山であることに留意）	アトサヌプリ、雌阿寒岳、大雪山、樽前山、倶多楽、有珠山、恵山
	活火山であることに留意	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

この管内月間火山概況は気象庁のホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所及び機動的な調査観測・解析グループ（北海道大学、東京大学、防災科学技術研究所）のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項（10 月１日～31 日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。北海道駒ヶ岳では、２日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）に引き上げました。十勝岳では、16日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを３（入山規制）から２（火口周辺規制）に引き下げました。雌阿寒岳では、11月４日（期間外）に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引き下げました。また、その他の火山の予報警報事項に変更はありません。

アトサヌプリ［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

雌阿寒岳［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］←11月４日（期間外）に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引下げ

ポンマチネシリ火口付近では、2025 年９月中旬に火山性地震の増加や火山性微動の発生、同火口方向上がりの傾斜変動、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙活動の活発化等が認められました。

火山活動が活発に推移する中、2025 年９月、10 月、2026 年３月にごく小規模な噴火が発生しましたが、以降、噴火は観測されていません。2026 年５月以降、傾斜変動は火口方向下がりに転じ、また噴煙量にも減少がみられるなど、火山活動が低下傾向に転じました。６月以降は地震活動にも低下傾向がみられるようになり、10 月以降は低調に経過しています。

これらのことから、ポンマチネシリ火口から約 500ｍの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと判断し、11 月４日 10 時 00 分（期間外）に噴火予報を発表して噴火警戒レベルを２（火口周辺規制）から１（活火山であることに留意）に引き下げました。

活火山であることから、火口内に影響する程度の噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、火口内や近傍では火山ガスや火山灰噴出に注意してください。

大雪山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

十勝岳［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］←10月16日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを３（入山規制）から２（火口周辺規制）に引下げ

３月以降、山体付近のやや深部の膨張を示す地殻変動、火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加、62-2 火口付近及びその周辺における地震活動の活発化、熱活動の高まりが認められ、７月下旬から８月上旬にかけては 62-2 火口付近でごく小規模な噴火が複数回発生しました。

その後、８月中旬から９月中旬にかけては、山体付近（主に 62-2 火口周辺）で振幅の大きな火山性地震が増加しましたが、その後は減少し、地震活動は低調に推移しました。

このことから、62-2 火口から概ね３㎞の範囲に影響を及ぼす規模の噴火が発生する可能性は低下したと判断し、16 日 10 時 00 分に火口周辺警報を発表して、噴火警戒レベルを３（入山規制）から２（火口周辺規制）に引き下げました。

一方、８月頃以降も山体付近やや深部のわずかな膨張を示す地殻変動、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が多い状態及び 62-2 火口付近の活発な熱活動が継続しており、火山活動は引き続き活発な状態にあります。このため、62-2 火口付近では、今後もごく小規模な噴火が発生する可能性があります。

62-2 火口から概ね 1.5km の範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

樽前山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

なお、山頂溶岩ドーム周辺では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

倶多楽［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

有珠山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

北海道駒ヶ岳［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］←２日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）に引上げ

９月23日以降、山頂火口原浅部を震源とする地震がやや増加し、26日から山頂火口原浅部の膨張を示すと考えられる火口原方向が上がる傾斜変動が認められました。10月２日には地震回数が明瞭に増加し、傾斜変動量も増大しました。

このことから、山頂火口原内で小噴火が発生する可能性があると判断し、２日07時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを１（活火山であることに留意）から２（火口周辺規制）に引き上げました。

３日以降、地震回数が減少し、傾斜変動も鈍化しましたが、25日には継続時間の短い火山性微動が発生し、傾斜変動の一時増大を伴いました。一方、山頂火口原内の各火口における噴気活動は低調に推移しています。

火山活動の高まった状況が継続しており、山頂火口原内で小噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね４ｋｍの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

恵山［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。